



品質は語る……

白松が モナカ本舗

こぐり山

和のマロングラッセ

栗の甘露煮を、
黒砂糖ヨーカンで包み
和三盆で仕上げました。

1個・165円／6個入1,183円



季節の上生菓子

粒よりの栗が奏でる秋の味わい。



数量
限定

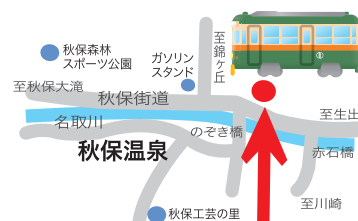
「栗おぐら銀寄」「栗かのこ」

1個・185円

1個・206円

※直営店にてご用命をお待ち申し上げます。表示価格は消費税込みです。

モナカ・ヨーカンの全国発送を承ります。0120-008-940 ※受付時間は8:00~17:00となっております。http://www.monaka.jp/ ●無料配達地域ご案内[直営店受付のみ]仙台・岩沼・名取・多賀城・塩釜(離島を除く)・石巻(旧市内)・大崎(旧古川市内)・札幌



10月3日、里帰りした1台が有志により新車のように塗り直された。(写真3)

※取材協力・写真提供

仙台市電保存館(仙台市交通局)
「みちのく鉄道応援団」小林和夫さん

そして最後の1両は、なんと平成14(2002)年、
故郷仙台に里帰りを果たしていったのです。里帰りに奔
走したのは、「鉄道パークシティ研究会」事務局長で
秋保電鉄経営者の子孫である小林和夫さん(87)とそ
のメンバー。そして、つい先日の10月の3日、秋空の
下で故郷仙台の、鉄道愛好者の会「みちのく鉄道応援団」
と、塗料を無償提供した仙台の塗料商社「富士塗料興
業(株)」の皆さんの手により、当時の資料と、団員の
記憶と知識を元に当時の仙台市電のカラーに正確に
塗りなおされ、現役時代そのままに綺麗にお色直しさ
れて、秋保温泉入り口の道路沿いに置かれ見学するこ
とができるようになりました(写真3)。この場所はか
つて、長町から秋保温泉まで走っていた秋保電鉄の終
着駅があった場所。土地を提供したのは、ここで生ま
れ育った建築家の故早坂惇さんと、息子の陽さん。い
ずれも大の鉄道ファンです。路面電車が引退後もこ
んなに愛されるのはなぜでしょう。小林さんは言いま
す。「時速は約30~40キロ程度。プラットホームとの段
差もなく乗り降り簡単。年寄りにも優しく人間味のある
乗り物だからでしょう。世界の都市では今、見直され
ているんですよ」と。仙台市電に乗ったことのある方も
知識として知っているだけの方も、一度「おかえり」を言
いに秋保方面に行かれた時にはぜひ訪れてみてはいいか
でしょうか？

39年前に姿を消した仙台市電。今でも動く車両は



「モハ100型車両」

昭和27(1952)年に9両導入されたボギー車(8つ
の車両を持つ台車にボディを乗せ、大型化した
車輛)。昭和44(1969)年、ワンマンカーに改造され
昭和51(1976)年の終業時まで運行。仙台市電の
車両側面のダイダイ色のラインは、オシャレな
デザインというわけではなく、その車両がワン
マン運転であることを知らせる目印だった。

「長崎電気軌道117号」として長崎市内を走る元仙台市電モハ100型(写真1)



オーストラリア・シドニーの野外博物館にも
展示されている。(写真2)

では長崎に行った他の4両はどうなったのでしょうか。
1両は廃車になりもう1両は佐賀県内の幼稚園へ。で
すが、残る2両は驚きの身の振り方をしています。こ
の2両のうちの1両は、何と海を越えてオーストラ
リアのシドニーへ(写真2)。世界の路面電車を集めた野
外博物館「AUSTRALIA'S TRAMWAY MUSEUM」に展
示されたのです。博物館発行の月刊誌に「日本の仙台
と長崎を走っていた車両」として、数ページにわたる
写真入りの記事で紹介されました。

昭和51(1976)年、仙台市民に惜しまれながらも、
自動車の低価格化による普及台数の増加など、交通環
境の変化によって姿を消した仙台市電。前回紹介した
「仙台市電保存館」に行けば展示されている車両に触る
ことも乗り込むこともできます。でも、「まだ線路の上
を走ることができない」「仙台のちんちん電車」はもう残
っていないのでしょうか。実はまだ残っています。仙
台から遠く離れた長崎の地に(写真1)。今から約40年
前、長崎市内で路面電車を営業する「長崎電気軌道株
式会社」に、廃止となった仙台市電の「モハ100型」
5両が譲渡され、乗客を乗せて走り続けていました。
5両は平成12(2000)年に現役を引退しましたが、
そのうちの1両が永久保存車両とされ、今もイベント
などの特別な日に長崎市内を走っています。東日本大
震災の際には、「仙台を走っていた電車」として運行さ
れ、復興支援にも一役買いました。長崎電気軌道さん
の粋なはからいです。機会があればぜひ乗ってみたい
ですね。

何処かに残っているの？